

基本構想



橋杭岩



潮岬の灯台

第1章 串本町の将来像

1. 目指すべき将来像

本州最南端 感動のまち 串本

串本町の人口は、昭和55(1980)年には、2万6千人を超えていましたが、平成27(2015)年に1万8千人を割り込み右肩下がりの状況が続いています。さらに現状の人口動態が続いた場合、国立社会保障・人口問題研究所の推計では平成52(2040)年に1万人を下回る規模になることが予想されています。また、人口構成では、「進学する学校の問題」や「働く場所の問題」から若年層が流出していく傾向にあり、ますます高齢化が進むことが予想されています。

一方で、紀勢道の延伸により、大都市圏からの距離的・時間的なハンディキャップが徐々に解消されつつあり、串本町内の交通量は増加し、観光客・交流人口も増加傾向にあります。さらに約10年後には紀勢道が本町まで延伸する計画もあり、さらに観光客・交流人口も増加し、それに伴って産業の活性化が期待できます。

本町の特色として、豊かな自然環境に恵まれ本州最南端に位置し、空と海のパノラマ風景に囲まれています。また、海の中にはラムサール条約湿地に登録された世界最北限に位置する特別なサンゴの海が広がっています。さらに、古座川の清流が流れ美しい水にふれることができます。また、「海難1890」で映画化されたエルトゥールル号遭難時の串本の人々による生存者の救出活動から脈々と受け継がれるトルコとの絆や第五福龍丸建造の地としての平和への願いの記念碑など歴史的な資産も存在します。そして、年間平均気温が17度と温暖な気候はポンカンやキンカンなど特色ある農産物が収穫でき、天然の漁場に恵まれ豊富な海産物も漁獲され、近年は「育てる漁業」である養殖業も盛んでブランド化・産地化が進められています。

恵まれた自然環境や誇るべき歴史・文化、温暖な気候や海からの恵みであるおいしい食べ物などが存在し、暮らして、訪れて体感できる串本町を10年後さらには22世紀の次世代へつなげていく「まちづくり」を行っていくことが町民と行政の責務であると考えています。そこで、10年後の本町を目指すべき将来像は、「串本が誇る自然美・食・人のこころが感動を与えるまち」とし、その想いをこめて将来像を「本州最南端 感動のまち 串本」とします。

2. 「まちづくり」の基本姿勢

将来像の実現にあたっては、「ひと」、「まち」そして「こころ」という3つの視点を重要と考え、そこにスポットをあてて「まちづくり」に取り組んでいきます。その根底にある想いは、『「ひと」を大切に、「まち」を誇りに思う「こころ」を育てるまちづくり』の実践を目指すということです。

人口減少・高齢化が進展する問題を抱え、それに加えて地震に対するリスクも抱えている本町において、まちづくりへのスタンスの第一歩は「ひと」であります。ひとに優しく、ひと各々を尊重し協力していくまちづくり、そして、ひとに安全と安心を与えるまちづくりが重要です。次に、「まち」が将来にわたって存続していくためには、活気があり元気があるまちづくりを行い、その結果として「ひとが集まる」仕組みづくりが必要です。さらに、今後のまちを担っていく人材を育むことも重要であり、そのためにはまちに対する愛着・愛情を高めていく教育を進めていくことも必要です。また、まち全体として、物質的な豊かさだけでなく精神的な豊かさ、すなわち「こころ」の豊かさを実感して暮らしていくことができるまちづくりも目指していく必要があります。

そのため、すべての施策に共通する「まちづくり」の基本姿勢として、以下の3点を掲げます。

「まちづくり」の基本姿勢

(1) 「ひと」を大事にする まちづくり

ひとに優しく、安全で安心して暮らせるまちづくりを目指します

(2) 「まち」に活気がある まちづくり

まちに活気があり、元気があるまちづくりを目指します

(3) 「こころ」が豊かになる まちづくり

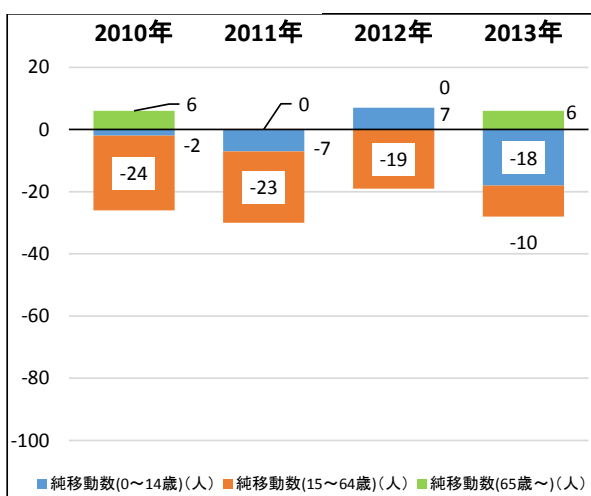
郷土に対する愛着・愛情を深める教育を進めます

3. 目指すべき将来人口

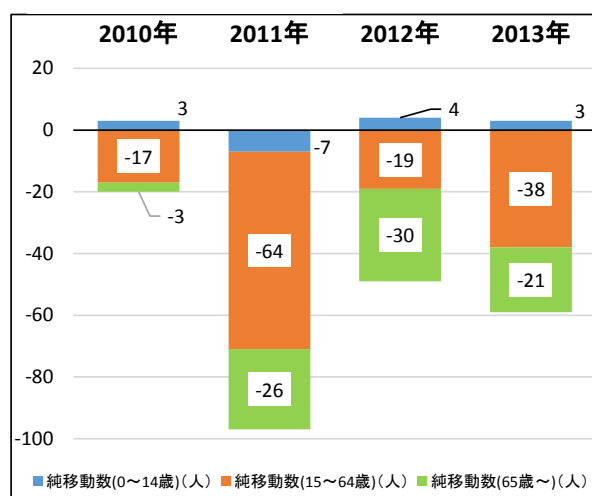
本町は、人口構成において高齢化が急速に進んでおり、現状の人口動態が継続すれば10年後には老年人口（65歳以上）の占める割合が50%近くになり、その後もその割合が拡大していくことが予想されます。また、高齢化の進展に伴い、自然減（死亡による人口減少）が加速度的に進むことが予想され、さらに社会減（町外への転出による人口減少）も続いており、特に近年は女性の若年層の流出が多くなる傾向が見受けられ、それが将来的な出生数の減少に影響を与えることも推測されます。老年人口が増加し、生産年齢人口および年少人口が減少することは、本町の産業においても大きな影響を受け、後継者問題や働き手の問題が現状より一層深刻化することを示しています。

このような状況が予想される中で、平成27（2015）年10月28日に策定した「串本町まち・ひと・しごと創生総合戦略・人口ビジョン」において、持続可能な串本町を維持していくために、過去の高齢化による人口減少は許容しつつ、2060年には地域社会の成長性が高く見込める人口構成への転換、すなわち若い世代が増加していく「生産年齢人口（15～64歳）比率50%以上の人口構成」を目指すべき目標としています。

年齢階級別移動数（男性）



年齢階級別移動数（女性）

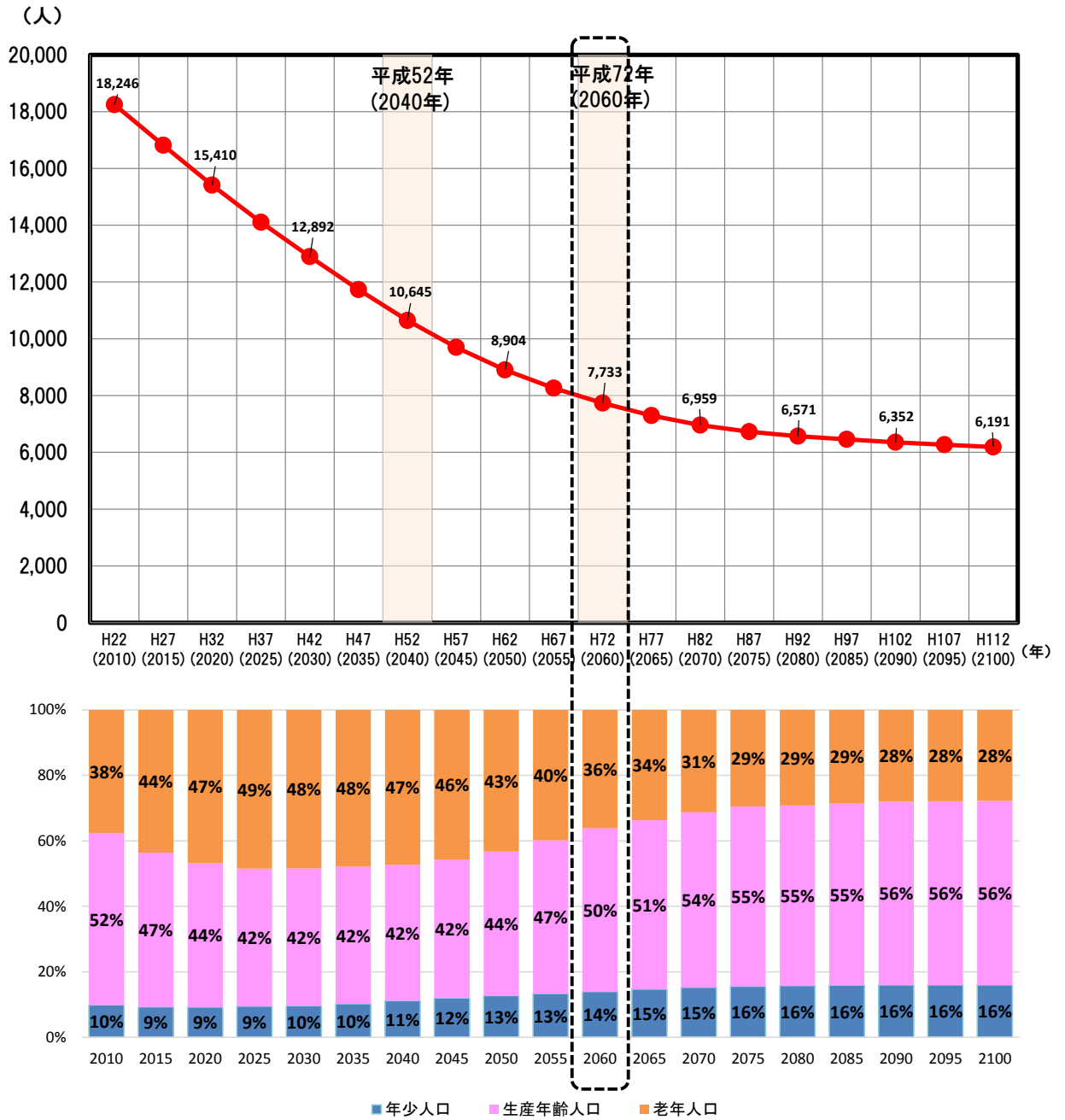


串本町まち・ひと・しごと創生人口ビジョンより（資料：地域経済分析システム）

将来の人口計画（串本町まち・ひと・しごと創生人口ビジョンより）の図表については次頁に記載します。人口計画を推計する前提条件として以下を掲げています、

- (1) 合計特殊出生率（1人の女性が生涯に何人の子どもを産むかを表す数値）
合計特殊出生率（平成22（2010）年現在1.65）を平成32（2020）年に1.80、平成42（2030）年には人口置換水準である2.07まで上昇させる。
- (2) 社会減（町外への転出による人口減少）
今後も一定の転出はあるものの、今後10年毎に50%の定率で縮小させる。

【将来の人口計画】



串本町まち・ひと・しごと創生人口ビジョンより

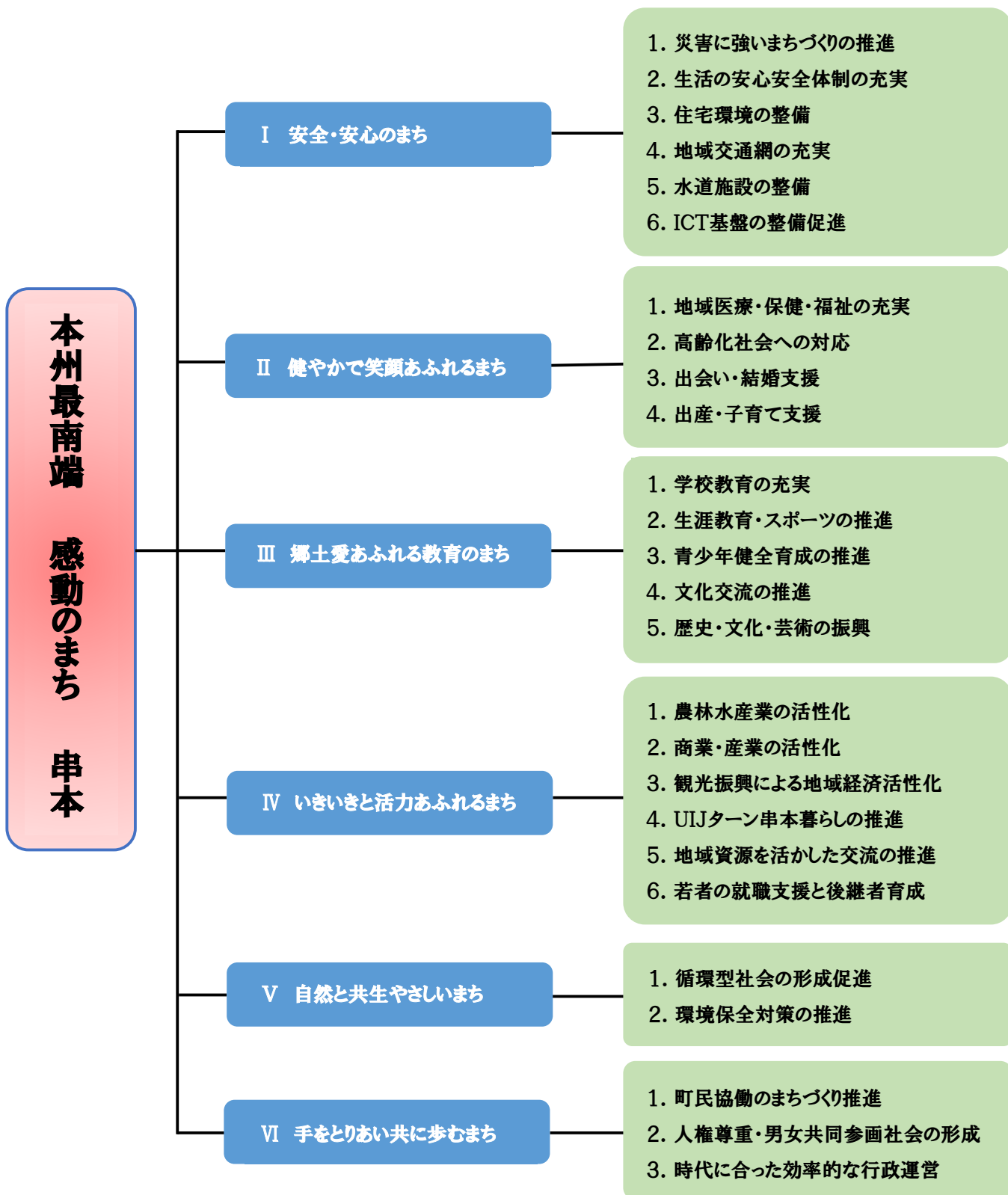
※平成22(2010)年人口については、不詳含みで算出

第2章 施策の大綱

目指すべき将来像「本州最南端 感動のまち 串本」実現に向け、分野ごとに取り組むべき施策の方向として、6つの基本目標を定めます。

【長期総合計画の体系図】





基本目標Ⅰ 安全・安心のまち

串本町の目指すべき将来像の実現に向けて、その前提として、町民が安全でかつ安心して生活できることが大切です。特に、東海・東南海・南海3連動地震や南海トラフ巨大地震の発生リスクの高まりを受けて、それに対する万全の対策を講じることはもちろんのこと、台風や集中豪雨等のあらゆる自然災害対策についても同様です。

そのような自然災害に対して、ハード（施設）・ソフト（運用）の両面から考えられる限りの対策を実施し、安全・安心な『まち』に限りなく100%に近づけることが重要です。

また、今後更に進むであろう高齢化社会や情報化社会などに対して、時代に合ったまちづくりを心がけ、誰もが安心して快適かつ安全に住み続けられる『まち』を目指します。



避難路（避難訓練）



ドクターヘリ

基本目標Ⅰ-1 災害に強いまちづくりの推進

本町のまちづくりの根底にあり喫緊の課題である自然災害対策については、最優先課題として実施していきます。ハード（施設）面・ソフト（運用）面の対策を両輪で実施し、より一層実践的かつ有効的な対策を講じ被害者ゼロを目指します。ハード（施設）面では、避難路・防災拠点の整備促進、公共施設等高台移転、新たな津波対策導入などを計画的に可能な限りスピーディーに進めます。ソフト（運用）面では、防災訓練や災害に対する教育・啓発を強化するとともに、自助努力を支援し、自主防災の組織力を高め、『「逃げる」から「逃げ切る」へ』の目標意識の定着に努めます。

基本目標Ⅰ-2 生活の安心安全体制の充実

町民の生命、身体及び財産を保護するため、総合的かつ計画的な防災・防犯・交通安全対策に取り組み、町民が安心して安全に生活できるように努めます。

基本目標 I - 3 住宅環境の整備

生活の基盤となる住環境について、町民が安心して安全に暮らせるような整備に努めます。紀勢道の延伸が進む中で、公共施設等の高台移転・主要拠点の集中化等を検討し安全で安心、便利なまちづくりを進めます。空き家等対策についても、情報収集・情報提供、その利活用などを推進し、移住・定住につなげられるような取組みを実施するとともに、地域住民への危険が懸念される特定空家等についても、その対応を推進し、安全・安心なまちづくりを目指します。

基本目標 I - 4 地域交通網の充実

本町の重要な交通手段は自家用車が主流となっていますが、高齢化が進む中、地域公共交通の重要性はますます高まってくると考えられます。現在運行している「串本町コミュニティバス」の安定運行維持と町民ニーズに適切に対応した利便性の更なる向上を図っていくように努めます。また、観光振興の面においても交通網の構築、観光地を結ぶネットワークの構築が重要となってきています。今後は、日常生活の利便性向上と観光振興の両面から社会を支える基盤としての地域交通ネットワークづくりへの取組みを推進します。

紀勢道延伸の整備促進や関連道路の整備を進めるとともに、便利で移動しやすい道路網の構築を目指します。

基本目標 I - 5 水道施設の整備

安全でおいしい水の供給は、健康で快適な生活に欠かせない最も重要な生活基盤です。安定した水量及び水質の供給を行うため、老朽化した設備の更新や施設の整備を実施し、更に災害にも強い水道施設づくりの取組みも実施していきます。

基本目標 I - 6 ICT基盤の整備促進

ICT（情報通信技術）は、現在、パソコン・スマートフォンなどの普及により、生活のいろいろな場面で活用され、日常生活と密接に関わり、人々の生活を支えるツール・基盤となっています。また、その活用については、教育現場はもちろん労働現場、さらには観光振興などにおいてもますます重要度は高くなってきています。今後は、その日常生活での利用促進や利用環境の整備・拡大への取組みを実施していきます。

基本目標Ⅱ 健やかで笑顔あふれるまち

串本町の目指すべき将来像の実現に向けて、子どもから高齢者まですべての世代の『ひと』が、健やかで笑顔にあふれて生活を送ることが大切です。

すべての世代が、地域で互いに尊重し合い、思いやりをもって、支え合い助け合うことで、誰もが安心して自立した生活を営むことができる環境づくりを推進していきます。それとともに、子どもがのびのびと育ち、子育てしやすい環境づくり、出産・子育てへと続く最初のステップである結婚や生涯の伴侶と出会える場の創出への支援など、笑顔あふれる『まち』を目指します。



くしもと町立病院



子育て支援風景

基本目標Ⅱ－1 地域医療・保健・福祉の充実

すべての町民が安心して生活でき、健康でいきいきと生活を送ることが可能な医療体制や健診、予防、健康相談体制の整備・充実を図り、また、誰もが、住み慣れた地域でいつまでも自分らしい暮らしが続けることができるように、地域で支え合う仕組みづくりを推進します。

基本目標Ⅱ－2 高齢化社会への対応

高齢化の進展が予想される本町において、高齢者が生活しやすく、安心して暮らせる環境づくりに取り組みます。高齢者が生涯にわたって活躍できる場所の提供、健康づくりの推進、地域ぐるみで高齢者を支え合う地域システムの構築など、高齢者に優しい社会の実現に向けて取り組んでいきます。

基本目標Ⅱ-3 出会い・結婚支援

本町は県内でも出生率の高い地域であります。しかしながら、現在の日本全体の傾向と同じくして、本町においても晩婚化・未婚化の傾向が強まりつつあります。その背景には、経済的な問題もある一方で、若者の結婚に対する意識の変化、出会いの機会の欠如など意識面や環境面の問題も存在します。

結婚は、その後の出産・子育てへと続く最初のステップであり、独身男女に対して、生涯の伴侶と出会える場の創出と安定した生活の場の形成などを支援していくとともに、結婚に対する意識の醸成についても取り組んでいきます。

基本目標Ⅱ-4 出産・子育て支援

子どもは、本町の将来を担う大切な宝物です。その宝物である子どもたちがのびのびと成長できる環境づくりと女性が働きながら安心して出産・子育てができ、子育てが楽しいと実感できるような環境づくりを地域社会全体での取組みとして推進していく体制の構築を目指します。



子育て支援センター「あつたカフェ」パンフレット

子育て支援センター「にこにこひろば」パンフレット



基本目標Ⅲ 郷土愛あふれる教育のまち

串本町の目指すべき将来像の実現に向けて、将来を担う子どもたちが本町の誇る自然環境のもとで、のびのびとたくましく育つとともに、誰もが生涯を通じて自由に学習や運動をする機会を持ち、郷土愛や郷土への誇りを育てることが大切です。

学校教育の環境を充実させるとともに、本町の文化、歴史や自然などの学習、スポーツ、芸術活動が活発な独自性を持った教育の『まち』を目指します。



学校給食風景



町民大運動会

基本目標Ⅲ-1 学校教育の充実

次代を担う子どもたちが、個性を伸ばし可能性を広げるような教育環境を整備するとともに、郷土愛や郷土への誇りを育てる特色ある教育を推進します。

また、幼保教育の一体化、その後の小・中さらに高校へつながるような教育の垣根を越えた交流を図るとともに、地域特性を活かした魅力のある教育環境づくりを目指します。

基本目標Ⅲ-2 生涯教育・スポーツの推進

文化・スポーツ活動を含めて様々な生涯学習活動が活発に行われ、町民の自己実現の場としての環境を整えるとともに、その活動を通して、文化・スポーツ交流が活性化され、地域貢献や地域振興につながるよう支援します。

基本目標Ⅲ－3 青少年健全育成の推進

青少年の健全育成を目指して、地域社会が一体となって取り組む体制を構築するとともに、町民みんなで青少年を守り育てる社会環境の整備を進めます。

基本目標Ⅲ－4 文化交流の推進

本町は、エルトゥールル号遭難時の救出活動を契機としたトルコとの交流、木曜島への真珠貝の採取を目的とした渡航の歴史からのオーストラリアとの交流、そして商船レイディ・ワシントン号とグレイス号が日本初上陸した出来事を機としたアメリカとの交流など、国際交流を盛んに行っています。そのような史実をもとにした国際交流を続け、郷土愛や郷土への誇りを育むとともに、未来へ語り継がれる友好の取組みを続けます。

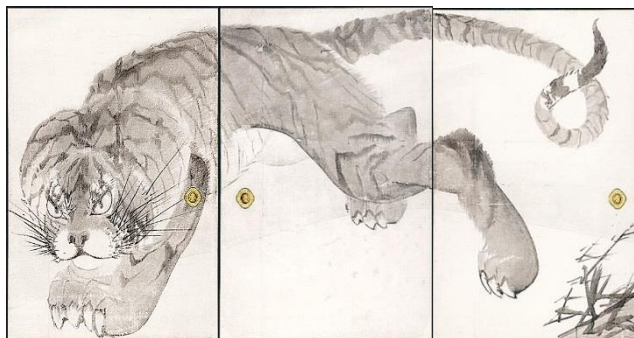
また、本町は、本州の端に位置する4つの市町（青森県大間町、岩手県宮古市、和歌山県串本町、山口県下関市）の間で設立された本州四端協議会に参加しています。そのような国内都市との交流も強化し、地域活性化を目指し、地域特性を活かした観光振興等のさまざまな取組みにつなげていきます。

基本目標Ⅲ－5 歴史・文化・芸術の振興

郷土愛や郷土への誇りを育むことを目指して、歴史、文化や芸術に対する理解を深め、『まち』の文化などの継承・伝承者の育成となる取組みを推進します。



文化交流風景



長沢芦雪の「虎図」

基本目標Ⅳ いきいきと活力あふれるまち

串本町の目指すべき将来像の実現に向けて、地域の活力を生み出すためには安定した生活の基盤となる「しごと」が大切です。

本町は黒潮の恵みを活かした水産業、風光明媚な自然を活かした観光、本州最南端の温暖な気候を活かした農林業など、「しごと」を創り出す素材に恵まれています。これらを今まで以上に有効に活用して、既存産業の維持と業種の垣根を越えた交流による新たな産業の育成等を目指します。



かつおケンケン漁



カヌー

基本目標Ⅳ－1 農林水産業の活性化

水産業では黒潮による恵まれた海洋資源のより有効な活用・展開を図り、農業では耕作放棄地の活用や新たな品種への取組みを促進、林業では建築資材の生産のみならず自然環境の保全、水質保全等公益機能も有している林道等林業基盤の整備を推進します。

6次産業化等による商品の高付加価値化や後継者育成支援など「しごと」の基盤づくりへの取組みについても推進します。

基本目標Ⅳ－2 商業・産業の活性化

人口減少による消費の減少、後継者不足、さらに大手スーパーの出店などにより地元商業は衰退傾向となっています。しかしながら、商業の振興は観光産業や漁業と密接な関係があり、特色のある地域ブランド育成を行うなど、地域関係団体と連携しながら進めていく必要があります。また、「安定した雇用の創出」は『ひと』が集まる重要な要件であり、新規創業支援や企業誘致に向けての取組みについても推進します。

基本目標Ⅳ－3 観光振興による地域経済活性化

近年において観光入込客数は減少する傾向にありましたが、紀勢道の延伸により距離的・時間的なハンディキャップも解消されつつあり増加傾向に転じています。

今後は、紀勢道の更なる延伸計画の中、多様化する観光客・顧客ニーズを把握し対応するとともに、本町の誇るべき観光資源を活かし国内外からより多くの『ひと』が訪れる観光振興・地域振興へ向けての取組みを推進します。

基本目標Ⅳ－4 U I J ターン串本暮らしの推進

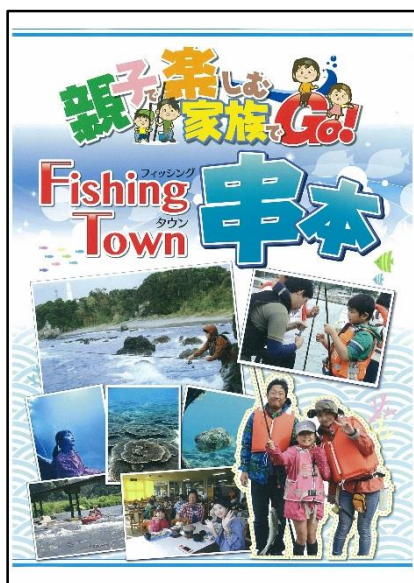
町外に向けて積極的に「串本町の魅力」の情報を発信していくとともに、移住者が安心して生活できる環境づくりを進めます。積極的な移住に関するセミナー参加や産官学との連携強化など交流への取組みも推進します。

基本目標Ⅳ－5 地域資源を活かした交流の推進

本町の誇るべき資源である「歴史・海・山・川」を活用し、串本暮らしを体験してもらう活動やスポーツ施設を活かした交流を積極的に推進することにより「串本ファン」を増やし、潜在的な移住予備軍を広げる取組みを推進します。

基本目標Ⅳ－6 若者の就職支援と後継者育成

U I J ターン希望者などに対する就職・就業支援を積極的に進めるとともに、本町の伝統的な産業を守るための支援を行い、高齢化する産業の担い手を育てる取組みも進めます。



サン・ナンタンランド多目的グラウンド

観光協会「体験型観光」パンフレット

基本目標Ⅴ

自然と共生やさしいまち

串本町の目指すべき将来像の実現に向けて、本町の誇るべき自然環境を未来へつないでいくことは大切です。

本町は本州最南端に位置し、ラムサール条約登録湿地として認定された世界最北限のサンゴ群落、吉野熊野国立公園に登録されている自然豊かな地域であり、その保全事業、環境保全のための活動への支援などは、美しい海・山・川などの自然を有する『まち』の責務といえます。

今後は、これまでの取組みをより一層推し進め、ラムサール条約登録湿地のサンゴ群落・吉野熊野国立公園・ジオサイトを含む海岸線・世界遺産追加登録の熊野古道大辺路など本町が誇る自然を次世代に遺していく保全・美化活動を強化するとともに、循環型社会の実現に向けた取組みも推進します。



ラムサールの海



熊野古道大辺路

基本目標Ⅴ-1

循環型社会の形成促進

自然環境に配慮し自然と調和した施設計画を進めるとともに、再生可能エネルギーの研究や活用への支援など循環型社会の実現に向けての取組みも積極的に推進します。

基本目標Ⅴ-2

環境保全対策の推進

自然環境に調和し、快適に暮らすことのできる環境づくりを推進するとともに、本町が誇る自然を次世代に遺していく保全・美化活動を強化し、美しい『まち』の景観の形成を図ります。



串本町潮岬



九龍島と鯛島

基本目標VI 手をとりあい共に歩むまち

串本町の目指すべき将来像の実現に向けて、町民、各種団体と行政が一体となってみんなで力をあわせて「まちづくり」を進めていくことが大切です。

イベントの開催、防犯・防災活動、清掃活動、環境保全活動など、各種取組みへの協力を互いに行うことにより、まちづくりに対する意識の醸成を図っていきます。

また、男女が分け隔てなく参画でき、人権を尊重する社会の構築に向けて、啓発活動の展開も重要です。

時代は刻々と変化し行政に対する要望も多様化してきている中、限られた財源と人員で工夫して効率的に対応していくことも必要です。今後は人材の育成はもとより地域間連携の推進、計画的な行政運営、広報・広聴活動の強化により情報の共有化を進めるなど、色々な面で見直しを進めていきます。



広報くしもと



串本まつり

基本目標VI-1 町民協働のまちづくり推進

町民、各種団体と行政が一体となって、それぞれの役割と責任をもって協働し、地域社会をより良くする様々な取組みを進めていく町民参加のまちづくりを目指します。

基本目標VI-2 人権尊重・男女共同参画社会の形成

男女が分け隔てなく参画でき、互いに認め合い人権を尊重する『こころ』豊かで自分らしく暮らすことのできる地域社会を目指して、意識の醸成と環境づくりを推進します。

基本目標VI-3 時代に合った効率的な行政運営

厳しい経営環境の中、時代に合った取組みや見直しを行い、町民の『こころ』が豊かになることを目指して、限られた行政経営資源を施策の重要度と優先度に応じて効率的に配分・投入できる仕組みの構築に努めます。



串本町役場本庁舎



串本町役場古座分庁舎

